

H2 1.1 1.2 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成21年11月2日(月) 13時30分～17時30分

議事概要：

表 H2 1.1 1.2 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・魚類検討会の経緯について報告した。	・特になし	・特になし	・特になし
2.野外実験について	・飼育改善試験結果について報告した。	・循環式の水槽で改善効果がみられた。	・今後、循環式を基本として飼育を行うこととするが、掛け流しが鰭に良くない原因を探る試験を一部継続しても良い。 ・水質の違いも確認すること。	・事務局：今回の結果を受けて、新しい飼育計画を策定する。 ・事務局：原則として循環式の飼育に切り替えるが、掛け流しの試験区も残し、水質検査を実施して鰭欠損の原因を調べる。
	・放流実験のモニタリング結果について報告した。	・少なくとも3個体の1歳魚の生存を確認した。	・マイクロハビタットモデルの検証はできたと思うが、実験淵を選定する際に使用したハビタット(淵)モデルについては確認できたか。	・事務局：淵レベルのハビタットモデルについては、局所的個体群をもう少し長期的にみる必要があると考える。
	・今年度の放流計画について協議した。	・今年の放流数として1歳魚30個体、2歳魚10個体を提案した。	・放流計画については、なるべく多く放流する計画に賛成する。	・事務局：今後、この放流数で具体的な放流計画を策定する。
3.人工水路実験について	・隠れ家実験の結果解析について再検討結果を報告した。	・選好性の解析方法は開発できたが、選好性が認められない場合もあった。	・利用する間隙の大きさについての解析は、もう少しデータを増やして、精度を上げたほうが良い。	・事務局：小サイズの模型等で間隙データを収集することを検討する。
	・ネコギギを使用する実験計画について報告した。	・ネコギギを使用する実験では、あらかじめ想定される組合せでの選択実験を提案した。	・提案された計画について了解する。 ・実際の施工に反映させられる土木的な解を得ることがゴールと認識する。 ・隠れ家実験では他の魚種が同所した場合は変わるのではないか。	・事務局：捕食者、被食者、同種の変異等のチェック事項があると考えている。
			・繁殖に関する実験については、使用する形状のみではなく、種間関係の影響も含めて知見を収集して欲しい。 ・野外の実際の繁殖場を反映したモデルでの実験を希望する。	・事務局：次回実験を来年度の繁殖期に実施する予定なので、その手法については次回検討会で議論願いたい。
4.支川のポテンシャルについて	・豊川上流域の支川について、道路工事予定、河川工事予定を報告した。	・豊川上流域の支川で道路工事、河川工事予定がある。	・今後、道路工事、河川工事等に対する対応をしっかりとやっていただきたい。 ・情報を早めに、確実に収集して対応すること。	・事務局：関係機関と情報共有の徹底を図り、今後は全ての工事情報が事務局に入るようにする。また、定期的に情報交換会議(仮称)も実施する。

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
5.モニタリング調査結果について	・今年度実施したモニタリング調査結果を報告した。	<ul style="list-style-type: none"> ・個体数変動をモニタリングしている淵の一部で生息が確認されなかった。 ・C 集団のモニタリングでは生息が確認されなかった。 ・繁殖状況調査では3 淵で繁殖利用箇所が確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の野外生息状況を過去の状況と比較してどう捉えているか。非常に厳しい状況と捉えている。 ・野外個体群の減少もあることから、事業者は、工事影響と自然変動を分けておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：現在の状況が数年続くと状況として厳しくなると感じている。 ・事務局：影響分けについては、工事のない自然河川（コントロール）と比較することで対応できると考えている。
6.転流工対応について	・転流工対応として実施した調査結果及び今後実施する調査計画について報告した。	・転流区間の4 淵でネコギギの生息が確認された。	・特になし	・事務局：特になし
7.ネコギギ保全のための枠組み検討について	・ネコギギ保全方法の具体化検討について報告した。	・人工繁殖実験を充実させる方法について提案した。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、繁殖に至っていない原因をしっかりと追及していく必要がある。 ・これについては、根拠を持った対策を実施していくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：繁殖、水の問題、ホルモンの問題について、順次変えていく。 ・事務局：来年度、繁殖に入る前に再度詳細部分から整理する。
		・生息数の多い支川の個体群の現状を評価した。	<ul style="list-style-type: none"> ・流域として、生息数の多い支川の保全が重要である。 ・ネコギギを中心とした全体の保全について、間違えない道筋で保全を行って欲しい。 	・事務局：保全に際しては、工事、病気、生息環境、外来種などが人為的に変えられることなので、それらについても留意する。
8.ネコギギ以外の魚類について	・当該地方のナガレホトケドジョウに関する保全について協議した。	・当該地方のナガレホトケドジョウは遺伝的に独立した個体群である可能性が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・当該地域のナガレホトケドジョウはこの地方にしかない個体群なので、保全に際しては、県の河川課等、様々な機関と連携したい。 ・検討会の中で効果的な保全対策を考えていく必要があり、事務局にも協力をお願いしたい。 	・事務局：事務局で立案しているナガレホトケドジョウ保全計画についても、今後ご意見を頂きたい。